



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

## 平成31年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

屋久島森林生態系保全センター及び九州森林管理局で実施する平成31年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。特に本年度は、高層湿原の試行的保全対策について進めることとしています。

### ◎目的

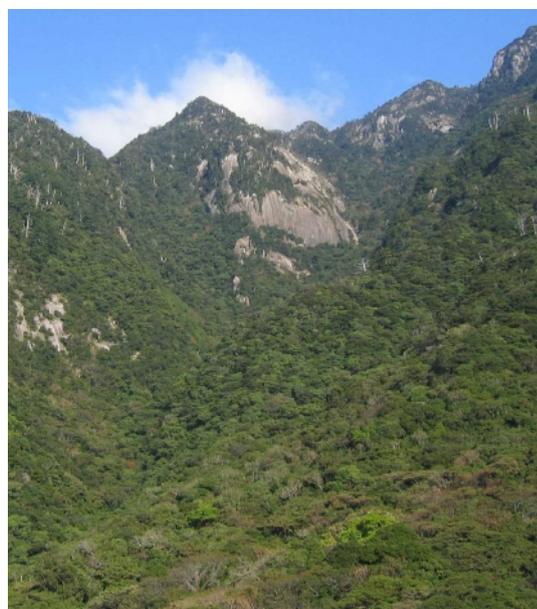
世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を行っていく必要があります。

平成11年度から行っている垂直方向の植生モニタリング調査を引き続き実施するほか、各種モニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聴きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。

### ◎業務概要

#### 1. 屋久島西部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

標高0m地点から国割岳山頂付近の標高1,300m地点まで8カ所のプロットで調査を行い過去のモニタリングと比較・分析し、動態予測します。



垂直分布を見られる国割岳

#### 2. 高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討

花之江河については歩道からの土砂流入、シカの影響調査、水位の状況調査及び小花之江河に設置した植生保護柵内外の状況調査を行います。

平成30年度に設置した「高層湿原保全対策検討会」を今年度は2回実施します。引き続き学識経験者も含め現地検討会を行い、地表水や地下水のモニタリング調査や試行的保全対策を行います。



花之江河の現況(無人航空機撮影)

#### 3. 西部地域におけるヤクタネゴヨウ生育状況調査

主要群落内のプロット箇所においてヤクタネゴヨウ個体の生育状況の確認調査を行い評価します。

#### 4. 森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

気象庁のデータ及び各機関等のモニタリング調査等からデータ収集を行い分析評価します。黒味岳では積雪深の観測を継続的に行います。

## 屋久島産木材の需要拡大を!① — 屋久島町役場木造の新庁舎落成 —

屋久島町では、「庁舎建設検討委員会」が平成25年に設置され、地域資源と地元人材を最大限活用し、森林・林業・木材産業の成長産業化を掲げ、庁舎建設を契機に屋久島における地域づくりへと繋げることを基本方針として、木造庁舎を建設することが決定されました。原木の調達から設計施工へ、その後に本体着工と約5ヶ年の年月を重ね、この度、木造新庁舎が完成したことから、島内外から130



式典が行われた議会棟

名程の関係者一同が出席され、5月18日、「屋久島町新庁舎落成式」が盛大に執り行われました。式典では、テープカットの後、最初に荒木屋久島町長から、すべての関係者へのお礼と感謝及び屋久島地杉の特徴を活かし、立派な建物を建築することにより林業の再生や販路の拡大へ繋げ屋久島の林業等の発展に寄与する等々のあいさつがありました。引き続き来賓の方々からも、屋久島のシンボルとしての発展や自然資源と環境の両面で発展を願うなど観光業等の関連についてあいさつがありました。

建物の概要は、敷地面積(12,802㎡)、延面積(3,630㎡)、木造2階建てとなっており、木材使用量(製材換算)は1,032㎡、そのほとんどで屋久島産の木材が使われています。

屋久島森林管理署では、屋久島町役場から木造新庁舎建設に伴う木材の供給に関する依頼があったので「屋久島町木造新庁舎建設に伴うプロジェクトチーム」を平成26年5月に設置し、屋久島町が実施する各種検討会等へも積極的に参加し情報の共有に努めました。更には、伐採跡地への植栽用苗木として広葉樹苗木の育苗に関する覚書を屋久島町と締結し、今後の屋久島における主伐・再生林の課題解決に向けた取り組みを一層強化することとしました。



関係者によるテープカット



あいさつする荒木町長

屋久島署及び当保全センターにおいては、今後の屋久島の森林・林業の成長産業化と併せて木材の需要拡大、多様な生態系の保全管理等の観点からもバランスのとれた持続可能な森林づくりを進めることとしています。

## 林業関係広報コンクール「最優秀賞」受賞 (5月24日)

第53回林業関係広報コンクールの応募が本年2月に行われ、「洋上アルプス」を広報誌部門に応募したところ「最優秀賞」を受賞し、東京で開催された授賞式に出席しました。

審査委員会からの講評は、手作りの4ページものながらセンターの活動などをこまめに伝えるとともに、技術情報やモニタリング調査概要及びコラムの枠も設け、多様な情報の提供を実現している。レイアウトや色使いもバランスよく、毎年1月号は屋久島内の全戸に配布されているなどの高い評価を受けました。

これまで原稿をお願いした皆様や編集に携われた諸先輩方に感謝するとともに、これからも、屋久島の情報発信となるよう全職員で取り組んでいく考えです。



表彰を受け取る奥村指導官

# 近代文化遺産としての森林軌道（第1回）

石田 真弥（独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 保存科学研究センター）

屋久町企画課でまとめられた『動く環境教室 屋久島に生きる屋久島森林軌道 今昔』の冒頭に「屋久島（安房）森林軌道（以下、森林軌道とする。）は、歴史的には屋久島森林開発の軌跡であり、唯一、国内に現存する林用軌道です。これは、屋久島の産業史を知る上からも文化的価値の高い地域資源です。」とあります。そこで、近代文化遺産の視点から、森林軌道で用いられている軌間（レールの間隔）の特徴などについてご紹介します。

森林軌道の軌間は762mmあり、通称ナローゲージと呼ばれる規格で敷設されています(図1)。ナローゲージとは、軌間が国際標準軌間の1,435mm<sup>\*1</sup>よりも狭い(narrow)軌間(track gauge)を指しますが、国内の鉄道では、JRの在来線が1,067mmの軌間を採用しているため、それより狭い軌間を指すことが多いようです。歴史的にみると森林軌道と同一軌間で運行していた路線は全国に数多くありましたが、現在では多くの路線が廃線となっています。現役で運行を続けている路線は、四日市あすなろう鉄道内部線・八王子線（三重県）、三岐鉄道北勢線（三重県）、黒部峡谷鉄道本線（富山県）など極僅かです。また、路線とは異なりますが、日本製鉄株式会社尼崎製造所では、工場内の資材運搬にナローゲージの軌道車が運用されています。その他には、魚梁瀬丸山公園（高知県）にて、旧魚梁瀬森林鉄道施設<sup>\*2</sup>で実際に使用されていた野村式L69号が動態保存され、観光資源として活用されています。さらに、やながわ希望の森公園の蒸気機関車さくら号（福島県）、東京ディズニーランド内のアトラクションであるウエスタンリバー鉄道（千葉県）、愛知こどもの国のB12号蒸気機関車（愛知県）などでは、新たにナローゲージの蒸気機関車を製造し、娯楽資源として活用する動きも見られます。また、日本最初期の森林鉄道施設である旧魚梁瀬森林鉄道では、通常の鉄道構造物とは異なるナローゲージ用の構法や規模で建設された橋梁、隧道合わせて18箇所が旧態を良好に保持していることが評価され、国の重要文化財に指定されるなど、鉄道遺産の文化財保護も進んでおります。

屋久島を訪れる多くの方は、豊かな自然に触れることを目的にされているかと思いますが、森の奥へと細く長く続くナローゲージにも少し関心を寄せて頂けたら幸いです。（つづく）

※1:新幹線の軌間（一部の新幹線の軌間は異なる）

※2:昭和32年に廃線が決定

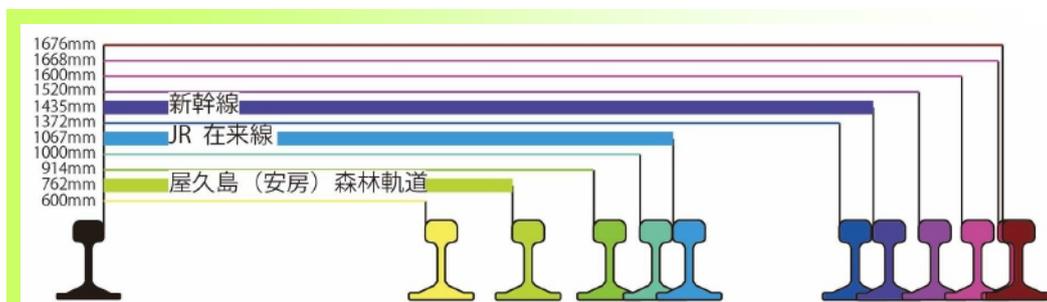


図1: 主な軌間の一覧



## 屋久島の植物 サンゴジュ（レンブクソウ（スイカズラ）科）

関東以南に分布する常緑高木。屋久島では低山地で見られる。

花期は6月、円錐形の花序に白い小さな花を多数つける。果実や果柄は赤サンゴ色になり、果実は熟すと黒色に変わる。防火樹や生垣に利用される。



## 屋久島中央部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成29年度）

●No.2 プロット（標高：1,400 m 面積：2,500 m<sup>2</sup>）

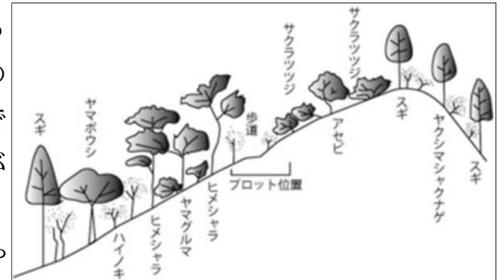
高塚小屋から上った稜線上の北側急斜面を、登山道に沿うように設定。植生はスギーハイノキ群集。

【毎木・植生調査】 合計77種の植物種を確認。高木層の優占種はスギで、落葉広葉樹のヒメシヤラや常緑広葉樹のヤマグルマも多い。亜高木層でもヒメシヤラやヤマグルマが目立ち、タンナサワフタギやヤクシマシャクナゲ、ナナカマドなどが混生。低木層ではハイノキが優占し、サクラツツジやヒメヒサカキ、ヤクシマシャクナゲなど、草本層ではヒメシヤラやユズリハ、ハイノキ、スギなどの稚樹が生育。H24年度、H29年度の階層区分毎の植被率に大きな変化はないが、低木層の優占種がハイノキからサクラツツジに変わった。

【周辺植生】 種の構成、森林の階層構造はプロット内とほぼ同様であった。尾根に近い箇所ではヤクシマシャクナゲやスギ、ヤマグルマなどの生育が目立つ。斜面においては、ハイノキが混生していた。斜面下部ではヤマグルマが多く、ヒメシヤラ、スギ、ヤマボウシ、ユズリハ、ハリギリが混生。

【衰退樹木の調査】 部分的に枝枯れ及び根元から幹の一部に腐朽や樹洞が視認される樹木が見られた。また、調査地の中を登山道が通過していることから、一部の樹木に登山者の踏圧による被害も確認された。

【過年度からの比較及び今後の動態予測】 H24年度調査ではH19年度調査と比較した結果、低木層・草本層について、ヤクシカの嗜好性植物であるハイノキやユズリハ、ヤクシマシャクナゲ、サクラツツジ、アセビなどの割合が増えた。今回の調査でもヤクシマシャクナゲ、ヒメヒサカキなど嗜好性植物は増加し、ヤマグルマなど嗜好性植物は減少していた。ヤクシカの生息数が増加に転じることなく現在のまま推移した場合、ヤマグルマやリョウブの他、初期の調査で確認されていたイワガラミやサルトリイバラなどの嗜好性植物の増加が期待される。逆に、ヤクシカの生息数が増加に転じた場合、不嗜好性植物の割合が増加すると考えられる。



No.2プロット 群落縦断面図



根元周りの状況（樹種：タンナサワフタギ）

## 観光客の皆様を親切に誘導 — GW期間の縄文杉周辺マナー指導 —

（4月28日～5月5日）

屋久島町・鹿児島県・屋久島観光協会・屋久島環境文化財団・環境省・林野庁等で構成されている「屋久島山岳部保全利用協議会」では、今年もGW期間中に縄文杉周辺のマナー指導を行いました。

屋久島森林管理署と当保全センターは、4月29日と5月5日を受け持ち、北デッキ周辺の混雑防止のため、一方通行を行うなど登山客の方々に親切丁寧を心がけて誘導等を行いました。



縄文杉に感動する観光客

10連休となった今年の指導期間中の縄文杉登山者数は約3,300人でした。例年、5月4日が超混雑日となっていました。今年前半は雨模様で10連休も重なり分散されたように感じられました。日時別の最高人数は5月2日（木）が600人超となりました。

これから先、屋久島を訪れ登山される方々は十分な準備と体調管理を行い安全に登山しましょう。